

WMH Masters Hockey World Cup 2020 Tokyo

～人生100年時代、生涯スポーツで健康長寿を目指します～

2019年5月

公益社団法人 日本ホッケー協会マスタース部会

本大会の概要

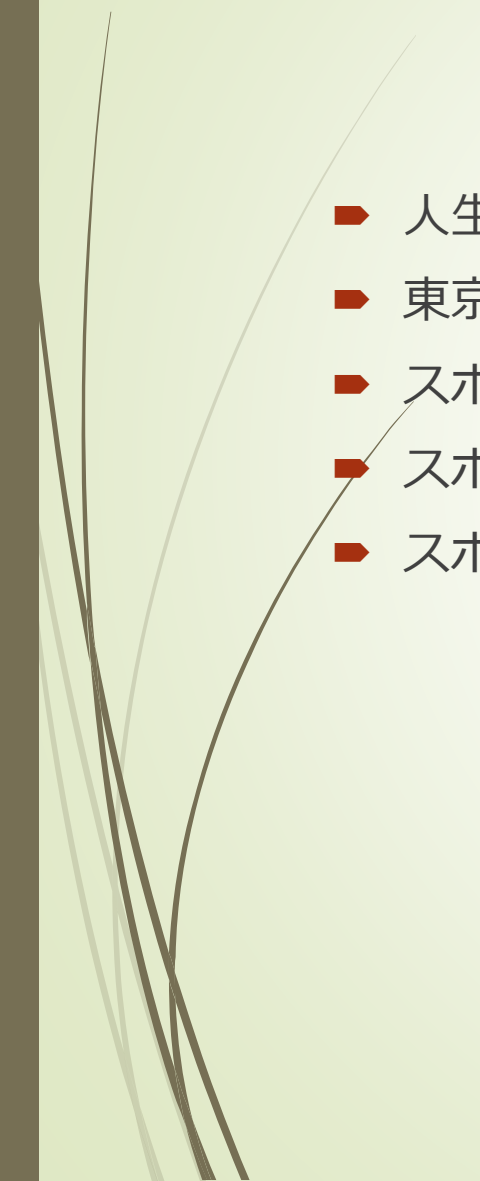
- ▶ 大会名：WMH Masters Hockey World Cup 2020 Tokyo
- ▶ 内 容：世界各国の60歳以上のシニアによるホッケーの国別・年齢別対抗戦
- ▶ 日 程：2020年11月5日（木）～15日（日） 11日間
- ▶ 会 場：大井ホッケー競技場 3面（東京オリンピック公式競技会場）、
駒沢オリンピック公園第一球技場
- ▶ 種 別：男子60歳以上、65歳以上、70歳以上、75歳以上の国別対抗戦
トーナメント・トロフィー（クラブ対抗戦）
- ▶ 参加国：20数ヶ国、60～70チーム、約180試合を予定
- ▶ 主 催：公益社団法人 日本ホッケー協会（JHA）
- ▶ 公 認：国際ホッケー連盟（FIH）、世界マスターズホッケー（WMH）
- ▶ 主 管：東京都ホッケー協会（THA）、日本ホッケー協会マスターズ部会

本大会の特徴と意義

- “WMH Masters Hockey World Cup 2020 Tokyo”は、日本で開催される数少ない国際競技大会の一つです。
- 特にマスターズ種目では2021年に「関西ワールドマスターズ」が開催されますが、単独の団体競技で大規模に開催される国際大会は今回が初めてです。
- 60歳以上のシニア世代が、国の代表として誇りをかけて熱戦を繰り広げるとともに、世界のホッケー仲間たちと親睦を深めることも本大会の特徴です。
- 準備活動から運営までほぼすべてを、日本のマスターズホッケー関係者を中心に、おもてなしの精神に則り、ボランティア活動で行います。
- 人生100年時代、超高齢化社会の日本では長く豊かに生きることが大きなテーマです。クオリティ・オブ・ライフ（QOL）を豊かにすることが個人にも社会にも重要な課題となる中で、QOLを高めるシニア世代のスポーツの象徴とも言える大会です。
- スポーツ庁が2017年4月に策定した「スポーツ基本計画」の4つの方針をまさに具現化する大会でもあります。



本大会のコンセプト

- ▶ 人生100年時代、生涯スポーツで健康長寿を目指す
 - ▶ 東京オリンピック・パラリンピック後のもう一つの世界大会
 - ▶ スポーツで「人生」と「社会」を変える！
 - ▶ スポーツで「世界」とつながる！
 - ▶ スポーツで「地域社会」に貢献する！
- 

WMH Masters Hockey World Cup

- WGMA主催で2002年から2年に1回、世界各地で開催されている60歳以上の国際ホッケー大会。

* WGMAは2019年1月にIMHAと統合してWMHという新組織になった。

WMH (World Masters Hockey) 、 WGMA (World Grand Masters Association) 、
IMHA (International Masters Hockey Association)

- これまでの開催国は2002年マレーシア、2004年ギリシア、2006年ドイツ、2008年香港、2010年南アフリカ、2012年イングランド、2014年オランダ、2016年オーストラリア、2018年スペイン。2020年は日本での開催が決定。
- 前回大会は2018年6月20日からバルセロナで開催され、世界24カ国、79チームが参加。日本からは60+、65+、70+の3チーム、約50名が参加。